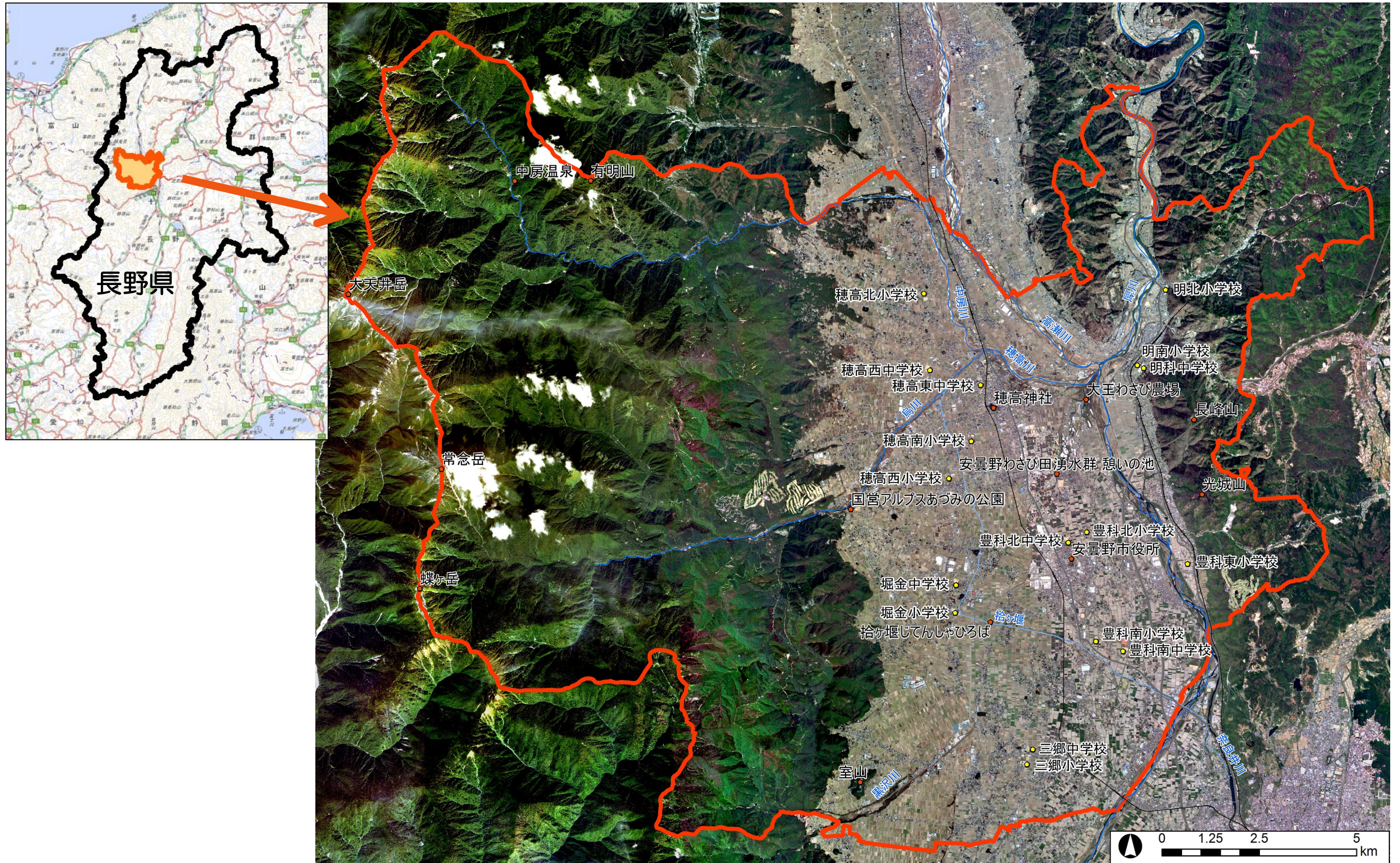


あづみのし
安曇野市について



△注意！必読のこと！！ 本資料中の説明は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用にあたっては、地元の地形・地質や地下水等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにして下さい。

安曇野市の概要

- 長野県のほぼ真ん中に位置します。
- 面積は 331.78 km²で、県内で 9 番目に面積が広いです(平成 30 年 4 月 1 日現在)。
- 人口は 98,073 人で、県内で 6 番目に人口が多いです(平成 30 年 4 月 1 日現在)。
- 平成 17 年 10 月 1 日に、豊科町・穂高町・三郷村・堀金村・明科町が合併して、安曇野市が生まれました。
- 地下水が豊富であり、水道水はすべて地下水を利用しています。
- 安曇野わさび田湧水群、杜江の水、おたねの水などの湧水も多くみられます。
- 特産品として、わさび、米、ニジマス、あづみのりんご、たまねぎ、信州サーモン、穂高天蚕などが有名です。
 - わさびの生産量は日本で一番多く、全体の 90%を占めます。
 - 米の生産量は県内で一番多く、品質もトップクラスです。



▲杜江の水



▲大王わさび農場のわさび田



▲穂高天蚕（安曇野市 HP）

安曇野市の地形的特徴

- 安曇野市の西側には、標高 3,000m 前後の北アルプス（飛騨山脈）が広がっています。
 - 北アルプスのふもとには、烏川扇状地や中房川扇状地などの複数の扇状地が形成されています（複合扇状地）。
 - 扇状地は砂礫層で構成され、雨や河川水が地面にしみ込みやすくなっています。
- 安曇野市の東側には、標高 700m 前後の筑摩山地が広がっています。
- 北アルプスと筑摩山地の間には松本盆地と呼ばれる盆地が広がっており、そこに安曇野市は位置しています。
- 安曇野市の北側に穂高川と高瀬川が流れ、南側に犀川が流れています。この 3 つの河川は市内の東側で合流し、1 本の河川（犀川）になります。
- 3 つの河川の合流部を、三川合流部と呼びます。



▲長峰山展望台から見た、三川合流部と安曇野

安曇野市の百選

- 安曇野市は水が豊富であり、水に関連する以下の「百選」に認定されています。
- 「昭和の名水百選」として、「安曇野わさび田湧水群」が認定されています。
 - 平成 27 年に開催された名水百選選抜総選挙で、200 の名水を対象に「観光地」「景観」「秘境地」「おいしさ」の 4 部門で投票が行われ、「観光地」と「景観」の 2 部門で第 1 位を獲得しました。
- 「疏水百選」として「拾ヶ堰」が認定されています。
 - 平成 28 年には、世界かんがい施設遺産にも登録されました。
- 「水の郷百選」として安曇野市が認定されています。
 - 認定ポイントは次の 3 つです。豊かな水で栽培されたわさび販売量が日本一であること。水が循環利用され、生活・産業の重要な資源となっていること。水にまつわる数々の伝説が伝えられていること。



▲安曇野わさび田湧水群



▲拾ヶ堰（安曇野市 HP）



安曇野市の歴史 ～拾ヶ堰（じっかせぎ）～

- 安曇野市は土地の大半が砂礫の扇状地等で形成されているため、河川水や雨が地面にしみ込みやすい地域です。そのため、昔の安曇野では水を手に入れることが非常に困難でした。
- 平安時代から農業用水確保のための堰がつくられ始め、江戸時代後半に、松本市の奈良井川から取水し烏川まで約 15km の距離を流れる「拾ヶ堰」がつけられました。
- 完成当時に 10 の村の農地を潤したことから、「拾ヶ堰」という名前が付けられました。
- 拾ヶ堰の特徴の 1 つは、等高線に沿って造られた「横堰」ということです。標高差が 5m ほどしかないため、とても緩やかに水が流れます。それまでは、標高の高いところから低いところに向かってつくられる「縦堰」が主流でした。
- 標高差を利用して水を高いところから低いところへ流す縦堰とは異なり、標高差をほとんど利用できない横堰には高度な技術が求められました。そんな大変な工事を、安曇野の人たちは事前の測量や設計を丁寧に行うことにより、たったの 3 か月で完了させました。
- 拾ヶ堰には、先人たちの知恵や努力が詰まっています。これらを未来へ残すため、現在は「拾ヶ堰応援隊」や「拾ヶ堰景観形成プロジェクト」による、自然観察会など様々な活動がされています。